



# **USER'S MANUAL**

4ポート ブロードバンドルータ

## **BRL-04FA**

**PLANEX COMMUNICATIONS INC.**



# **USER'S MANUAL**

4ポート ブロードバンドルータ

**BRL-04FA**

# 本製品を安全にお使いいただくために

## 警告

本製品をご利用の際は、以下の注意点を必ずお守りください。これらの事項が守られない場合、感電、火災、故障などにより使用者の重傷または死亡につながるおそれがあります。

### 分解・改造・修理はダメ！

各部のネジを外したり、カバーを開けたりしないでください。また製品内部の部品を改造・交換しないでください。感電や火災につながるおそれがあります。



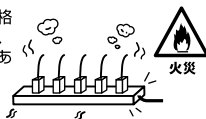
### 正しい電圧で使用して！

指定の電圧以外で使用すると誤動作や火災につながるおそれがあります。



### タコ足配線・無理な配線はダメ！

コンセントや電源タップの定格を超えて電気製品を接続すると、発熱し火災につながる危険があります。



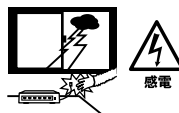
### 液体・異物はいれないで！

製品内部に液体や異物が入ると、ショートして火災が発生したり、誤動作したりする可能性があります。万一異物や液体が入ってしまった場合は、電源コードをコンセントから外して弊社サポートセンターまでご連絡ください。



### 雷のときはさわらないで！

雷が発生している間は、製品各部およびケーブルにさわらないでください。感電するおそれがあります。



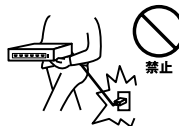
### 通気口をふさがないで！

内部に熱がこもり、誤動作や火災につながるおそれがあります。



### 電源コードをつけて移動しないで！

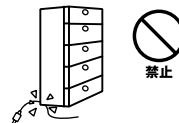
本製品を設置・移動する際は、必ず電源コードを前もって抜いておいてください。電源コードを入れたまま移動し、コードが傷つくと誤動作や火災につながるおそれがあります。



### 電源コードは傷つけないで！

火災・感電につながるおそれがありますので、電源やACアダプタのコードは絶対に加工したり傷つけたりしないでください。また以下の点を守ってコードを傷めないようにしてください。

- ◇コードの上に物を載せない
- ◇熱源の側にコードを置かない
- ◇コードをかじる癖のあるペットは隔離する（かじった部分からショートし発火する危険があります）



### 設置・保管場所をもう一度確認して！

以下の場所での本製品のご利用や保管は避けてください。これらの場所で設置・保管を行うと誤動作や感電、火災につながる危険があります。

- ・本製品が落下する可能性のある不安定な場所
- ・高温または多湿の場所（暖房器具の側も含む）
- ・急激に温度変化する可能性のある場所（結露のおそれがある所）
- ・静電気を帯びやすい場所（絨毯の上も含む）
- ・腐食性のガスが発生する場所

- ・直射日光のあたる場所
- ・振動の激しい場所
- ・ほこりの多い場所
- ・腐食性のガスが発生する場所



### ◎おねがい

本製品のお手入れ

- ・本製品のお手入れは乾いた柔らかい布で行ってください。
- ・汚れがひどい場合は、水で薄めた中性洗剤に布を浸し、かたく絞って本製品を拭いてください。また最後に乾いた布で軽く拭いてください。
- ・台所用中性洗剤以外は使わないでください。シンナーやベンジン、ワックス、アルコールが入ったものは使用できません。

# このマニュアルの構成

---

本マニュアルは 4ポート ブロードバンドルータ bRoad Lanner BRL-04FAの概要および使用方法について説明します。本マニュアルの構成は以下のようになっています。

## 必ずお読みください

---

### 第1章 はじめに

本製品の概要と各部の名称について説明します。必ずお読みください。

## ご使用方法

---

### 第2章 ハードウェアの接続

本製品ハードウェアのADSL/ケーブルモデムおよびLANとの接続方法について説明します。必ずお読みください。

### 第3章 インターネット接続設定

本製品を使って簡単にインターネットに接続する方法について説明します。必ずお読みください。

### 第4章 アドバンスド設定

本製品のDHCPサーバ機能や静的マスカレード、ファイアウォール機能などのより詳しい機能の設定の方法について説明します。

### 第5章 その他の機能

本製品の通信状況の表示や、ファームウェアのアップデート、設定の初期化などについて説明します。

## 付録

---

### 付録A トラブルシューティング

「トラブルかな?」と思われる場合の対応方法について説明します。

### 付録B インターネット接続設定のステータス表示

「インターネット接続設定」ページのステータス表示の一覧です。

### 付録C デフォルト設定

本製品の工場出荷時のデフォルト設定について説明します。

### 付録D 仕様

本製品の製品仕様です。

マニュアル内の表記について

本マニュアル内では製品の名称を本製品と表記します。区別が必要な場合は製品型番で表記します。

記載の会社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

# 目次

本製品を安全にお使いいただくために	2
<b>第1章 はじめに</b>	
1.概要	7
2.特長	8
3.梱包内容の確認	9
4.各部の名称	10
5.対応機器	13
<b>第2章 ハードウェアの接続</b>	
1.ADSL/ケーブルモデムとの接続 (WAN側ポート)	15
2.ネットワークとの接続 (LAN側ポート)	16
3.電源の接続	17
4.接続の確認	18
5.本製品のリセット手順	19
<b>第3章 インターネット接続設定</b>	
1.コンピュータの設定	21
2.ブラウザからのアクセス	30
3.簡単インターネット設定	32
4.通常接続の設定	33
5.PPPoE接続の設定	36
6.インターネット接続の確認	41
<b>第4章 アドバンスド設定</b>	
1.LAN側ポートとDHCPサーバ機能の設定	43
2.DMZ機能による複数グローバルIPアドレス接続の設定	49
3.NAPT設定	53
4.静的マスカレード機能によるサーバの公開	55
5.ルーティング	68
6.ファイアウォール	72
7.管理者設定	79
8.WAN側ポートMACアドレスの変更	81
9.PPPoEマルチセッション設定	83
10.WWWサービス制限	87
11.時刻設定	88
12.ログ機能	90

---

<b>第5章 その他の機能</b>	
1. アクセス状況の表示	93
2. 設定情報の保存 / 読み込み	95
3. ファームウェアのアップデート	97
4. デフォルト設定の読み込み	98
<b>付属A トラブルシューティング</b>	101
<b>付属B インターネット接続設定のステータス表示</b>	103
<b>付属C デフォルト設定</b>	105
<b>付属D 仕様</b>	107
<b>ユーザー登録について</b>	110
<b>弊社へのお問い合わせ</b>	111





# はじめに

## 1 概要

本製品は、ADSLおよびCATV（ケーブルTV）接続を使用したインターネット接続に対応したブロードバンドルータです。NAPT（Network Address Port Translation：ネットワークアドレスポート変換）機能により、1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有し、同時にインターネットにアクセスすることができます。PPPoE接続にも対応しており、NTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」および「Bフレッツ」でもご利用できます。本製品はWEBブラウザにより、簡単にセットアップすることができます。

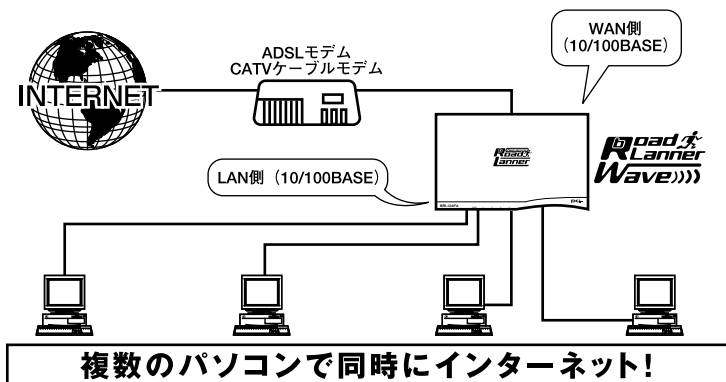


図1-1 bRoad Lanner接続図



### 注意

プロバイダによっては本製品のようなルータの使用や複数のコンピュータからのアクセスを制限していることもあります。プロバイダとのご契約内容についてご確認ください。

## 2 特長

NAPT機能により1つのIPアドレスを複数のコンピュータで共有可能

WAN側に100M/10M自動認識に対応した RJ-45 STPポートを1ポート装備

LAN側に100M/10M自動認識に対応した4ポートスイッチングハブを内蔵

WAN側ポートはDHCPクライアントに対応

LAN側ポートはDHCPサーバに対応（最大253クライアント）

ローカルサーバ機能およびバーチャルコンピュータ機能により、ローカルネットワーク上のコンピュータにインターネットからアクセス可能  
ステートフルパケットインスペクション方式のファイアウォール機能を装備

フィルタ機能を装備、送信元および送信先のIPアドレス、ポート番号によるアクセス制限が可能

WAN側の接続方法として通常の接続のほかにPPPoE接続に対応

unnumbered接続による複数グローバルIP接続サービスに対応

PPPoEマルチセッションに対応、最大同時2セッションまで接続可能

マルチNAT対応

ログ機能に対応、記録したログのE-Mail送信、syslogサーバへの送信が可能

WindowsMessenger対応

ARM9プロセッサによる高速ルーティング

WEBブラウザから設定可能

### 3 梱包内容の確認

パッケージに以下の付属品が含まれていることを確認してください。

bRoad Lanner (BRL-04FA) 本体

ACアダプタ

ストレートタイプLANケーブル (1m) 1本

ショートケーブル 1本

ユーザーズマニュアル

保証書 (ユーザーズマニュアルの最後にあります)

不足品があるときは、販売店または弊社テクニカルサポートまでご連絡ください。

## 4 各部の名称

### 本体前面

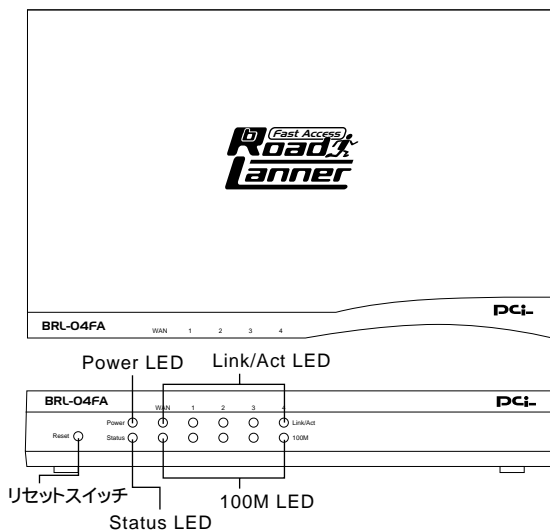


図1-2 BRL-04FA本体前面

#### 「Power LED」

本製品に電源が供給されている場合に点灯します。

#### 「Status LED」

本製品がデータの送受信中に点滅します。また、電源投入時の起動時などの自己診断中にも点滅します。

#### 「Link/Act LED」

ポートのリンクが確立しているときに点灯します。また、ポートがデータの送受信中は点滅します。

#### 「100M LED」

ポートのリンクが100Mで確立すると、点灯します。

#### 「リセットスイッチ」

本製品を再起動する場合に使用します。

## 本体背面

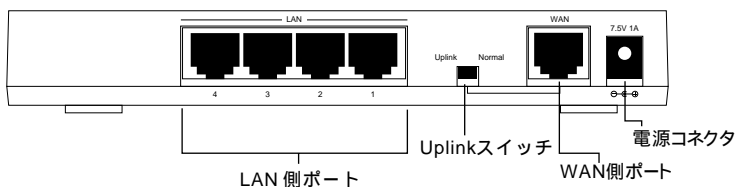


図1-3 BRL-04FA本体背面

## 「LAN側ポート」

本製品をLANと接続するためのRJ-45 LANポートです。

## 「WAN側ポート」

本製品をADSLモデムまたはケーブルモデムと接続するためのRJ-45 LANポートです。

## 「電源コネクタ」

付属のACアダプタを接続するための電源コネクタです。

## 「Uplink スイッチ」

WAN側ポートをUplinkポートに切り替える時に使用します。

## 本体裏面

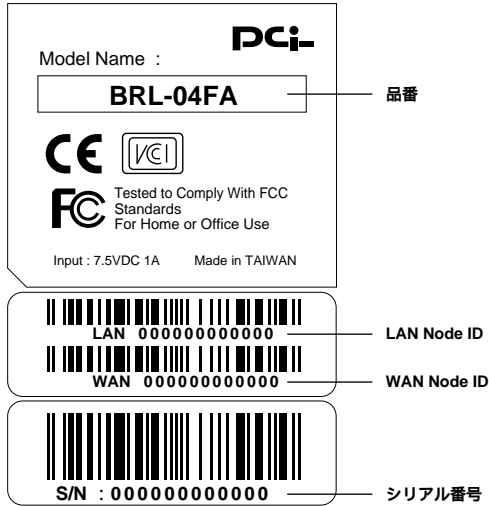


図1-4 BRL-04FA本体裏面

## 「品番」

本製品の製品型番です。

## 「シリアル番号」

本製品のシリアルナンバーです。製品外箱に記載されているものと同じ番号です。ユーザ登録時に必要となります。また、製品故障時などにサポートを受ける場合にも必要となります。

## 「WAN Node ID」

本製品のWAN側ポートのMACアドレス（物理アドレス）です。プロバイダによってはADSL/ケーブルモデムに接続する機器のMACアドレスの申請が必要な場合があります。そのときはこのMACアドレスをプロバイダに申請してください。

## 「LAN Node ID」

本製品のLAN側ポートのMACアドレス（物理アドレス）です。

## 5 対応機器

1

はじめに

### コンピュータ機器

本製品は、以下のいずれかのコンピュータに対応しています。

- ・ Windows 95/98/Me/NT/2000/XPを搭載し、RJ-45 LANポートを装備したコンピュータ
- ・ TCP/IPが利用可能なOS ( Mac OS、各種UNIX等 ) を搭載し、RJ-45 LANポートを装備したコンピュータ

### ネットワーク機器

本製品では、以下のネットワーク機器が必要となります。

- ・ LANケーブル

### ADSL/ケーブルモデム

本製品は、以下のいずれかのADSL/ケーブルモデムに対応しています。

- ・ RJ-45 LANポートを装備した外付ADSLモデム
- ・ RJ-45 LANポートを装備した外付ケーブルモデム

# 1

## はじめに



# ハードウェアの接続

**本**

章では、本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータとの接続手順について説明します。

**1 ADSL/ケーブルモデムとの接続 (WAN側ポート)**

1. ADSL/ケーブルモデムの電源を切ってください。
2. 本製品背面のUplinkスイッチを「Uplink」に切り替えてください。
3. 本製品付属のLAN用ストレートケーブルもしくは、市販のストレートタイプのLANケーブルで、本製品背面のWAN側ポートとADSL/ケーブルモデムのRJ-45 LANポートを接続してください。

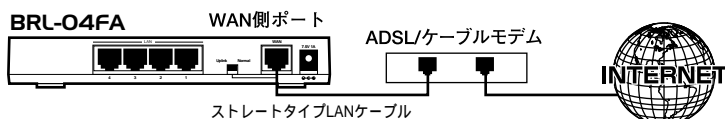


図2-1 ADSL/ケーブルモデムとの接続

**注意**

ADSL/ケーブルモデムの種類によっては、本製品と接続する際にストレートタイプのLANケーブルでなく、クロスタイプのLANケーブルを必要とするものもあります。ADSL/ケーブルモデム側のRJ-45ポートがMDI-Xのときは、Uplinkスイッチを「Uplink」に切り替えてください。MDIのときは「Normal」に切り替えてください。詳細については、お手持ちのADSL/ケーブルモデムのマニュアルを参照してください。

## 2 ネットワークとの接続（LAN側ポート）

1. ストレートタイプのLANケーブルの一端を本製品のいずれかのLAN側ポートに接続してください。
2. LANケーブルのもう一端をコンピュータのRJ-45 LANポートに接続してください。

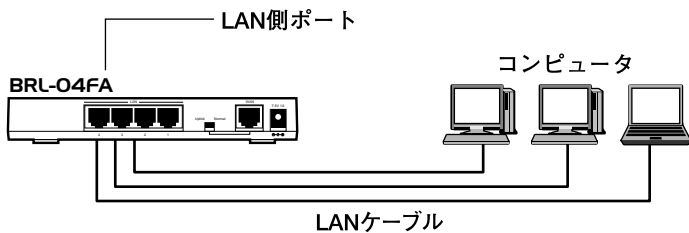


図2-2 ネットワークとの接続

### 3 電源の接続

1. 付属のACアダプタを本製品の電源コネクタに接続してください。
2. ACアダプタをAC100Vコンセントに接続してください。コンセントに直接、ACアダプタを接続できないときは付属のショートケーブルをご使用ください。
3. ADSL/ケーブルモデムの電源を入れてください。
4. コンピュータの電源を入れてください。

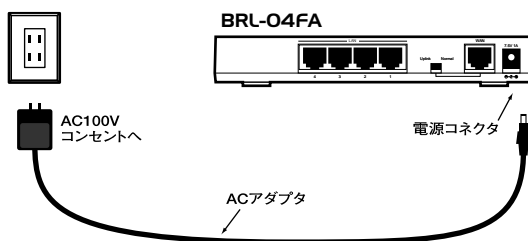


図2-3 電源の接続



#### 注意

ACアダプタは必ず付属のものを使用してください。付属のACアダプタ以外のご使用は、製品の故障、誤動作等の原因となります。付属のACアダプタ以外を使用した場合の故障は保証の範囲外となります。

## 4 接続の確認

これまでの接続を行い本製品の電源を入れると本製品のPower LEDとWAN LEDおよびLAN LEDが点灯します。

これらのLEDが点灯しないときは以下の点についてご確認ください。

### POWER LED

本製品付属のACアダプタを使用していますか？

ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？

ACアダプタはAC100Vコンセントにしっかりと接続されていますか？

### WAN LED

LANケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWANポートおよびADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？

ADSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？

Uplinkスイッチの設定は合っていますか？

### LAN LED

LANケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLANポートおよびコンピュータのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？

コンピュータの電源は入っていますか？

## 5 本製品のリセット手順

本製品背面にはリセットスイッチが装備されています。何らかの理由で本製品のリセットを行いたいときは、以下の手順でリセットを行ってください。

1. 本製品に電源が入っていることを確認し、リセットスイッチを押してください。
2. 本製品がリセットされ、再起動します。



### 注意

リセットをしても、本製品に保存されている設定は初期化されません。



# インターネット接続設定

## 本

章では本製品のインターネット接続設定手順について説明します。インターネット接続設定では、必要最小限の設定で、本製品を経由したインターネットへのアクセスを行えるようにします。

インターネット接続設定を開始する前に、第2章「ハードウェアの接続」を参照して本製品とADSL/ケーブルモデム、コンピュータの接続を済ませておいてください。

本製品のより詳細な設定を行うときは、第4章「アドバンスド設定」を参照してください。

## 3

## インターネット接続設定

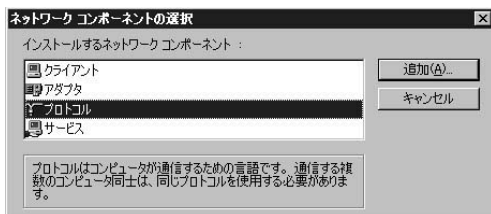
### 1 コンピュータの設定

Windows 95/98/Me

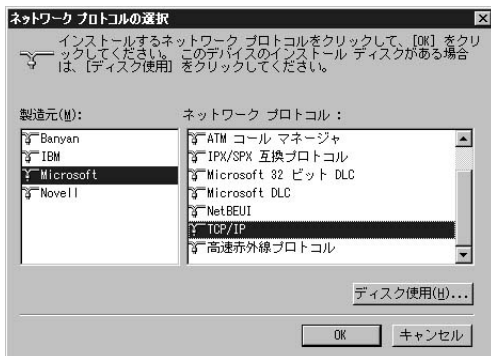
1. コンピュータにLANアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確認してください。LANアダプタがインストールされていないときは、LANアダプタのインストールを行ってください。
2. コンピュータにTCP/IPプロトコルがインストールされていることを確認します。「スタート」メニューから「設定」「コントロールパネル」「ネットワーク」と選択してください。「現在のネットワークコンポーネント」の欄に「TCP/IP」が表示されているか確認してください。インストールされているときは手順5に進んでください。



3. インストールされていないときは「追加」ボタンをクリックし、「インストールするネットワークコンポーネント」から「プロトコル」を選択して「追加」ボタンをクリックしてください。

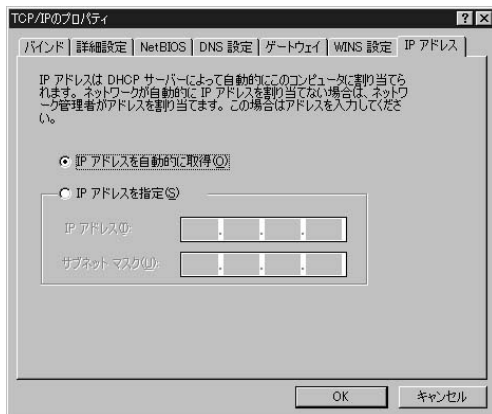


4. ネットワークプロトコルの選択で「製造元」に「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」には「TCP/IP」を選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ネットワークのプロパティの画面に戻ります。



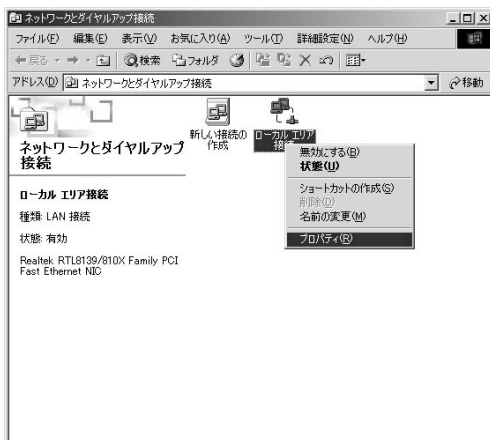


5. 「TCP/IP」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックしてください。「TCP/IPのプロパティ」画面が表示されるので、「IPアドレス」タブをクリックしてください。画面内の「IPアドレスを自動的に取得」オプションを選択し、コンピュータを再起動してください。



## Windows 2000

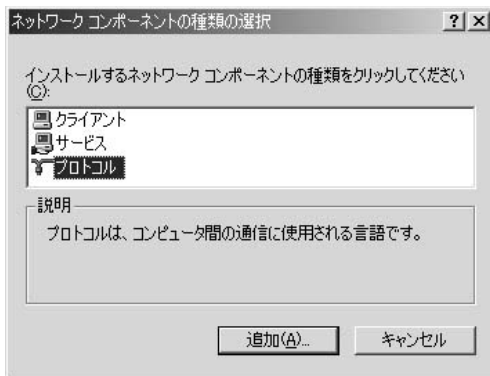
1. コンピュータにネットワークアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確認してください。ネットワークアダプタがインストールされていない場合は、ネットワークアダプタのインストールを行ってください。
2. コンピュータにTCP/IPプロトコルがインストールされていることを確認します。「スタート」メニューから「設定」「コントロールパネル」「ネットワークとダイヤルアップ接続」と選択してください。
3. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」を選択してください。



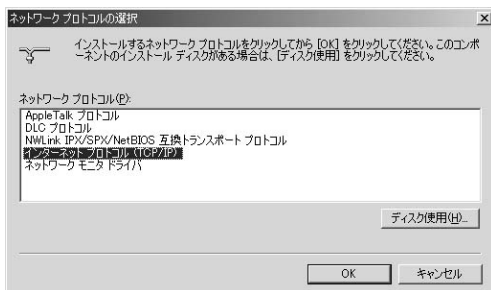
4. 「ローカルエリア接続のプロパティ」に「インターネットプロトコル (TCP/IP)」が表示されているか確認してください。インストールされている場合は手順7に進んでください。



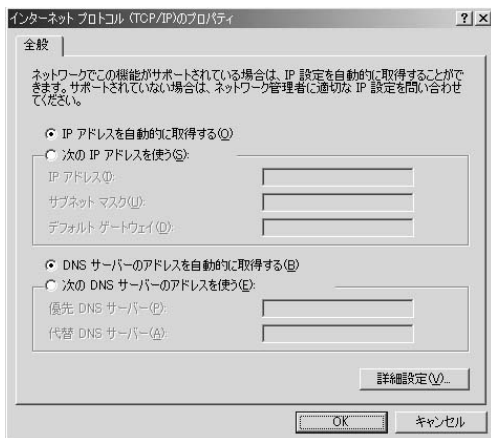
5. インストールされていない場合は「インストール」ボタンをクリックし、「ネットワークコンポーネントの種類」から「プロトコル」を選択して「追加」ボタンをクリックしてください。



6. 「ネットワークプロトコル」で「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ローカルエリア接続のプロパティの画面に戻ります。



7. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックしてください。「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面が表示されるので、「IP アドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」の2つのオプションを選択し「OK」ボタンをクリックしてください。



8. 「ローカルエリア接続のプロパティ」の画面に戻るのを閉じてください。

## Windows XP

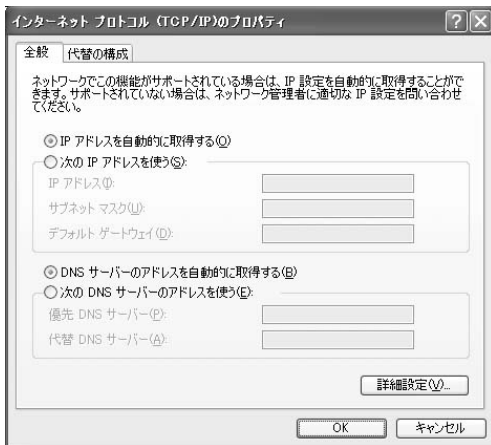
1. コンピュータにLANアダプタがインストールされ、正常に認識されていることを確認してください。LANアダプタがインストールされていない場合は、LANアダプタのインストールを行ってください。
2. コンピュータでTCP/IPプロトコルが有効になっていることを確認します。「スタート」メニューを開き、「マイコンピュータ」を選択してください。表示された「マイコンピュータ」ウィンドウの左側の「その他」の中にある「マイネットワーク」を右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択してください。「ネットワーク接続」ウィンドウが表示されます。



3. 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックして表示されるメニューから「プロパティ」を選択してください。「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。「この接続は次の項目を使用します」の欄の「インターネットプロトコル (TCP/IP)」の左側のチェックボックスがチェックされているか確認してください。チェックされていない場合はチェックしてください。



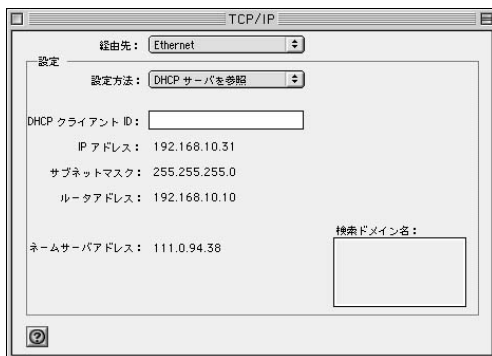
4. 「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックしてください。「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面が表示されるので、「全般」タブをクリックしてください。画面内の「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバのアドレスを自動的に取得する」のオプションを選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。



5. 「ローカルエリア接続のプロパティ」ウィンドウに戻ったら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。

## Macintosh

1. アップルメニューから「コントロールパネル」 「TCP/IP」と選択してください。
2. TCP/IPの設定ウィンドウの「設定方法」を「DHCPサーバを参照」に設定してください。



3. TCP/IPの設定ウィンドウを閉じて、Macintoshを再起動してください。

### その他のコンピュータまたはOS

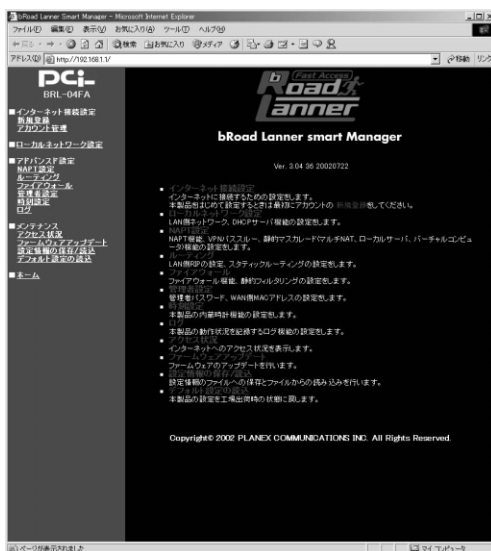
ご利用のコンピュータまたはOSのマニュアルおよびドキュメントを参照にして、ネットワークプロトコルをTCP/IPに設定してください。IPアドレスはDHCPサーバから取得する設定にしてください。

## 2 ブラウザからのアクセス

1. コンピュータが起動したら、ブラウザを起動してください
2. ブラウザのURLを入力する欄（Netscapeでは「場所」、Internet Explorerでは「アドレス」）に本製品のデフォルトIPアドレス「192.168.1.1」を入力し、Enterキーを押してください。
3. 本製品にログインするための認証ダイアログボックスが表示されます。パスワードにデフォルトのパスワード「password」を入力して「OK」ボタンをクリックしてください。



4. 本製品の設定画面が表示されます







## 注意

WEB設定画面が表示されないときは以下の項目を確認してください。

コンピュータのネットワークアダプタは正常に動作していますか？

コンピュータまたはネットワークアダプタのマニュアルを参照してネットワーク設定を確認してください。

コンピュータのTCP/IPの設定が間違っている可能性があります。IPを自動取得（DHCPを使用）する設定にしてください。

使用しているWEBブラウザで、プロキシが設定されていると設定画面が表示されません。プロキシを使用しない設定にしてください。Internet Explorerでは「表示（ツール）」 「インターネットオプション」 「接続」、Netscapeでは「編集」 「設定」 「詳細」にプロキシの設定項目があります。

お使いのコンピュータがIPアドレスを取得できていない可能性があります。

WindowsではDOSプロンプトから、ipconfig コマンドを実行するとIPアドレスが表示されます。Macintoshではアップルメニューから「コントロールパネル」 「TCP/IP」を開いて、IPアドレスの欄にIPが割り振られてるか確認してください。コンピュータがIPアドレスを取得できてないときは、コンピュータを再起動してください。（デフォルト設定時は 192.168.1.xxx がIPアドレスとして割り当てられます。）

## 3 簡単インターネット設定

1. ブラウザで設定画面を開きます。
2. 設定画面左側のメニューから、「新規登録」の文字をクリックします。インターネット接続アカウントの新規登録のページが表示されます。

### 3

### インターネット接続設定



3. ご利用のインターネット接続サービスのタイプに合った接続方法を選択して「次へ」ボタンをクリックします。

#### 通常接続

CATVインターネット接続サービスや「Yahoo!BB」などPPPoEプロトコルを使用しないADSL接続サービスをご利用のときの設定です。IPアドレスの取得にDHCPを使用するサービスのときもこちらの設定になります。

33ページ「4.通常接続の設定」に進んでください。

#### PPPoE接続

NTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」、 「Bフレッツ」や東京めたりっく通信の「G-One (旧Single)」サービス、名古屋めたりっく通信の「Home」サービス等のPPPoEプロトコルを使用したインターネット接続サービスをご利用のときの設定です。

36ページ「5.PPPoE接続の設定」に進んでください。

## 4 通常接続の設定

「通常接続の設定」では、ADSL/CATVインターネットサービスをご利用のときの設定をします。

1. 「通常接続設定」のページが表示されます。表示される設定項目に必要な情報を入力します。



### アカウント名

この接続に対するアカウント名を入力してください。使用するプロバイダ名など任意の名前がかまいません。

### IP設定の自動取得 (DHCP)

プロバイダからIPアドレスが自動的に割り当てられるときは「有効」、IPアドレスが固定で割り当てられるときは「無効」を選択します。「無効」のときは以下の「WAN側IPアドレス」、「WAN側サブネットマスク」、「WAN側デフォルトゲートウェイ」についても設定してください。工場出荷時の状態では「有効」に設定されています。

### ホスト名

特に必要が無い限り変更する必要はありませんが、ご利用のインターネット接続サービスによっては、ホスト名の設定が必要になります。このときはプロバイダから指定されたホスト名を入力してください。工場出荷時の状態では「broadlanner」に設定されています。

例：Mymachine

### WAN 側IPアドレス

IPアドレスが固定で割り当てられるときは、プロバイダから指定されたIPアドレスを入力してください。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

例：153.16.10.40

### WAN 側サブネットマスク

IPアドレスが固定で割り当てられるときは、プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力してください。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

例：255.255.255.240

### WAN 側デフォルトゲートウェイ

IPアドレスが固定で割り当てられるときは、プロバイダから指定されたデフォルトゲートウェイを入力してください。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

例：153.16.10.36

### DNSサーバアドレスの自動取得

プロバイダからDNS（ドメインネームサーバ）のIP アドレスが自動的に割り当てられるときは「有効」、DNSサーバアドレスが固定で割り当てられているときは「無効」を選択します。「無効」のときは以下の「プライマリDNSサーバ」、「セカンダリDNSサーバ」に関しても設定してください。工場出荷時の状態では「有効」に設定されています。

### プライマリDNSサーバ

プライマリDNSサーバのIPアドレスがプロバイダから固定で指定されているときは、プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

例：172.16.1.10

### セカンダリDNSサーバ

セカンダリDNSサーバのIPアドレスがプロバイダから固定で指定されているときは、プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。プロバイダからセカンダリDNSサーバのIPアドレスが指定されていないときは、入力する必要はありません。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

例：172.16.1.11

### WAN側ポートRIP機能

WAN側ポートのRIP機能を有効にするかどうかを選択します。通常は「無効」に設定します。工場出荷時の状態では「無効」に設定されています。

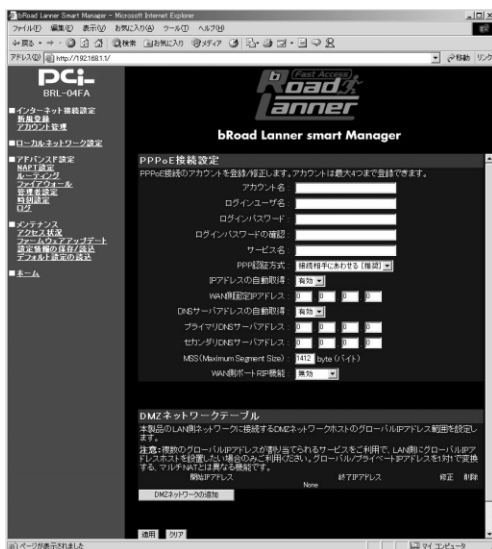
2. 入力内容を確認して、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。
3. 「設定を保存して再起動します。」というメッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動します。
4. 本製品が再起動したら、画面左側のメニューから、「アカウント管理」をクリックしてください。
5. 「接続方式の設定」の「接続方式の選択」で「通常接続」を選択して「適用」ボタンをクリックしてください。
6. 「設定を保存して再起動します。」というメッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動します。

以上で通常接続の設定は終了です。41ページ「6.インターネット接続の確認」に進んでください。

## 5 PPPoE接続の設定

「PPPoE接続の設定」では、PPPoE方式を採用したADSLインターネットサービスをご利用のときの設定をします。

1. 「PPPoE接続設定」のページが表示されます。表示される設定項目に必要な情報を入力します。



### アカウント名

この接続に対するアカウント名を入力してください。使用するプロバイダ名など任意の名前がかまいません。

### ログインユーザ名

プロバイダから指定されたPPPoE接続ユーザ名を、正確に入力してください。「フレッツ・ADSL」、「Bフレッツ」のときは「@」(アットマーク)以下も入力します。工場出荷時の状態では空欄に設定されています。

例：pci011@planexbrl.ne.jp



### 注意

最大64文字の半角英数字を入力できます。大文字・小文字の違いに注意して入力してください。PPPoE接続ユーザ名はメールアカウント名などと異なる場合があります。

## ログインパスワード

プロバイダから指定されたPPPoE接続パスワードを、正確に入力してください。セキュリティのため、この欄に文字を入力しても正しく表示されません。工場出荷時の状態では空欄に設定されています。

例：rY0Co2Mtu



### 注意

最大64文字の半角英数字を入力できます。大文字・小文字の違いに注意して入力してください。PPPoE接続パスワードはメールパスワードなどと異なる場合があります。

## ログインパスワードの確認

確認のためプロバイダから指定されたPPPoE接続パスワードをもう一度入力してください。セキュリティのため、この欄に文字を入力しても正しく表示されません。工場出荷時の状態では空欄に設定されています。

例：rY0Co2Mtu

## PPP認証方式

PPPoE接続時のユーザ認証の方式を選択します。通常は「接続相手にあわせる(推奨)」を選択します。工場出荷時の状態では「接続相手にあわせる(推奨)」に設定されています。

## サービス名

通常入力する必要はありません。プロバイダからPPPoEサービス名が指定されているときは、指定されたPPPoEサービス名を正確に入力してください。工場出荷時の状態では空欄に設定されています。

例：PPPServ



### 注意

最大64文字の半角英数字を入力できます。大文字・小文字の違いに注意して入力してください。

## IPアドレスの自動取得

IPアドレスがプロバイダから自動的に割り当てられるときは「有効」、IPアドレスが固定で割り当てられているときは「無効」を選択します。「無効」のときは以下の「WAN側固定IPアドレス」も設定してください。工場出荷時の状態では「有効」に設定されています。

## WAN側固定IPアドレス

IPアドレスが固定で割り当てられている場合に、プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

例：153.16.10.40

### DNSサーバアドレスの自動取得

DNS（ドメインネームサーバ）のIPアドレスをプロバイダから自動的に取得するときは「有効」、DNSサーバのIPアドレスが固定で指定されているときは「無効」を選択します。「無効」のときは以下の「プライマリDNSサーバ」及び「セカンダリDNSサーバ」も設定してください。工場出荷時の状態では「有効」に設定されています。

#### プライマリDNSサーバアドレス

プライマリDNSサーバのIPアドレスがプロバイダから固定で指定されているときは、プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

例：172.16.1.10

#### セカンダリDNSサーバアドレス

セカンダリDNSサーバのIPアドレスがプロバイダから固定で指定されているときは、プロバイダから指定されたプライマリDNSサーバのIPアドレスを入力します。プロバイダからセカンダリDNSサーバのIPアドレスが指定されていないときは、入力する必要はありません。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

例：172.16.1.11

#### MSS（Maximum Segment Size）

MSS（Maximum Segment Size）値を変更します。通常は工場出荷時の設定「1412」を変更する必要はありません。不用意に変更すると通信ができなくなったり、特定のサイトやアプリケーションが使用できなくなったり、パフォーマンスが著しく低下したりするので注意してください。MSS値に40を加えた値がMTUの値になります。



#### 注意

NTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「フレッツ・ADSL」「Bフレッツ」のときは、必ず「1414」以下の値でご使用ください。

#### WAN側ポートRIP機能

WAN側ポートのRIP機能を有効にするかどうかを選択します。通常は「無効」に設定します。工場出荷時の状態では「無効」に設定されています。



2. 入力内容を確認して、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。
3. 「設定を保存して再起動します。」というメッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動します。
4. 本製品が再起動したら、画面左側のメニューから、「アカウント管理」をクリックしてください。
5. 「接続方式の設定」の「接続方式の選択」で「PPPoE」を選択してください。
6. 「PPPoE接続アカウントリスト」の以下の項目について設定をしてください。

### セッション

アカウントの優先度を設定します。通常は「プライマリ1」を選択します。工場出荷時の状態では「プライマリ1」に設定されています。

### 自動切断

PPPoEでインターネットに接続中、通信が無い状態が続いた場合に自動的にPPPoE接続を切断するまでの時間を分単位で指定します。設定可能な範囲は0～999です。自動切断したくないときは、「0」を入力してください。工場出荷時の状態では「0」に設定されています。

例：10

### キーブアライブ

キーブアライブを「有効」に設定すると、本製品を起動したときやPPPoE接続がなんらかの原因で切断されたときに自動で再接続を行います。LAN側でサーバを公開している場合などでは、「有効」に設定することをお勧めします。工場出荷時の状態では「無効」に設定されています。

### プライマリセッション接続トリガ

コンピュータ上でブラウザを起動した場合など、LAN側のコンピュータからのインターネット接続要求に応じて自動的にPPPoE接続したいときは、「有効」に設定してください。定額のインターネット接続サービスのときは「有効」に設定することをお勧めします。工場出荷時の状態では「有効」に設定されています。

**注意**

「無効」に設定したときに、PPPoE接続をするには、「接続」ボタンで手動接続してください。

**接続確認間隔（10～300秒）**

PPPoEの接続を確認するための接続確認パケットの送信間隔を設定します。工事出荷時の状態では「60」に設定されています。

**接続確認リトライ回数（1～99回）**

上記の接続確認パケットに応答がなかったときのリトライ回数を設定します。ここで設定した回数、連続して応答がなかったときは、PPPoEの接続になんらかの障害が発生したと判断し、PPPoEの切断処理を行います。工事出荷時の状態では「6」に設定されています。

**注意**

接続確認間隔および、接続確認リトライ回数を小さく設定すると、不要な切断処理が行われる場合があります。通常は工事出荷時の設定のままご使用ください。

7. 入力内容を確認して、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。
8. 「設定を保存して再起動します。」というメッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。変更した設定内容が保存され本製品が再起動します。

以上でPPPoE接続の設定は終了です。41ページ「6.インターネット接続の確認」に進んでください。

## 6 インターネット接続の確認

1. ブラウザで本製品の設定画面を開いてください。
2. 設定画面左側のメニューから、「アカウント管理」の文字をクリックします。「アカウント管理」ページが表示されます。
3. ご使用の接続方法(アカウント)の「ステータス」欄に「Connect (xxxxx)」と表示されているか確認してください。「ステータス」欄のメッセージについては「付録 B」も参照してください。
4. ブラウザのアドレス入力欄に「http://www.planex.co.jp/」と入力して「Enter」キーを押してください。弊社ホームページが表示されればインターネットへの接続は成功です。



インターネットに正常にアクセス出来ないときは、付録A「トラブルシューティング」を参照してください。

# 3

## インターネット接続設定

# アドバンスド設定

こ

ここでは本製品の詳細な設定方法について説明します。

1

## LAN側ポートとDHCPサーバ機能の設定

ここでは本製品のLAN側ネットワークの設定とDHCPサーバ機能の設定ができます。

設定画面左側のメニューから、「ローカルネットワーク設定」の文字をクリックします。「ローカルネットワーク設定」画面が表示されます。各設定項目に必要な情報を入力します。



4

アドバンスド設定

### LAN側IPアドレス

本製品LAN 側ポートに設定するIP アドレスを入力します。ここに入力するアドレスがLAN 側からみた本製品のIP アドレスになります。工場出荷時の状態では「192.168.1.1」に設定されています。

例：192.168.1.1

### LAN側サブネットマスク

本製品LAN 側ポートに接続されたネットワークのサブネットマスクを入力します。工場出荷時の状態では「255.255.255.0」に設定されています。

例：255.255.255.0

### DHCP サーバ

「有効/無効」から選択してください。この機能を有効にするとLAN 側ポートに接続されたネットワーク上のコンピュータに対して、本製品が自動的にIP アドレスを割り当てます。有効にするときは以下の項目も設定してください。工場出荷時の状態では「有効」に設定されています。

### LAN側デフォルトゲートウェイ

本製品のLAN 側ポートに接続されたネットワークのデフォルトゲートウェイ（デフォルトルータ）のIP アドレスを入力します。通常は本製品を経由してインターネットに接続する形になりますので、上記「LAN 側ポートIP アドレス」と同じ値を入力します。工場出荷時の状態では「192.168.1.1」に設定されています。

例：192.168.1.1

### WINS サーバIPアドレス

LAN 側ポートに接続されたネットワーク上にWINS サーバがあるときはそのIP アドレスを入力します。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

例：172.16.1.20

## ドメイン名

通常は設定する必要はありません。ご利用のインターネット接続サービスでドメイン名の設定が必要なときに、ここにドメイン名を入力します。この設定を行うと本製品のDHCPサーバ機能によってIPアドレスが自動設定される際に、ドメイン名もコンピュータに設定されます。

プロバイダからドメイン名を指定されているときは、指定されたドメイン名を入力してください。工場出荷時の状態では空欄に設定されています。

例：planex.net

## DHCPリース時間

DHCPサーバが有効なときにIPアドレスのリース時間を設定します。最大21474836分まで設定できます。工場出荷時の状態では4320分に設定されています。

## DNSリレー

「有効」に設定するとDNSリレー機能が有効になります。DNSリレー機能とはLAN側のコンピュータからのDNSサーバへのリクエストを本製品がコンピュータに替わって行う機能です。通常は「有効」に設定して使用することをお勧めします。「有効」に設定したときはコンピュータのDNSアドレスには本製品のLAN側ポートのIPアドレスを設定してください。本製品のDHCPサーバ機能を使用しているときは本製品のLAN側ポートのIPアドレスが自動的にDNSアドレスに割り当てられます。「無効」に設定したときはコンピュータのDNSアドレスにはプロバイダから指定されたDNSサーバのアドレスを設定してください。



### 注意

DNSリレーが「無効」の状態接続先のプロバイダを切り替えたときは、その都度コンピュータのDNSアドレスの設定を変更する必要があります。

## UPnP機能

「有効」に設定するとUPnP（ユニバーサルプラグアンドプレイ）機能が有効になります。UPnP機能を有効にするとWindowsXPのWindows MessengerなどのUPnPに対応したアプリケーションを本製品のLAN側に接続したコンピュータ上で使用できるようになります。「無効」に設定するとUPnP機能が無効になります。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## DHCP割り当て範囲

本製品のDHCP サーバ機能により、LAN 側ポートに接続されたネットワーク上のコンピュータに対して自動的に割り当てられるIP アドレスの範囲がリスト表示されています。この範囲を変更したいときは「修正」ボタンを、削除したいときは「削除」ボタンをクリックしてください。工場出荷時の状態では「192.168.1.20」～「192.168.1.120」までのIP アドレス割り当て範囲が設定されており、最高100 台のコンピュータにIPアドレスを自動的に設定することができます。

IPアドレスの範囲を追加したいときは、「DHCP割り当て範囲の追加」ボタンをクリックします。「DHCP割り当て範囲の追加/修正」ページが表示されます。追加したいIP アドレス範囲の最初のIPアドレスを「開始IPアドレス」欄に、最後のIPアドレスを「終了IPアドレス」欄に入力して「適用」ボタンをクリックしてください。入力した内容が反映されたページが表示されます。

「IP割当て範囲」は最大で4つの範囲を指定できます。





## DHCP割り当て状況の表示

本製品のDHCP サーバ機能から、LAN 側ポートに接続されたネットワーク上のコンピュータに対してのIP アドレスの割り当て状況が表示されます。



The screenshot shows a window titled "DHCPリース状況" (DHCP Lease Status). Below the title is a subtitle: "現在のDHCPサーバIPアドレス割り当て状況を表示します。" (Display the current DHCP server IP address allocation status). The main content is a table with four columns: "割当てられたIPアドレス" (Assigned IP Address), "コンピュータのMACアドレス" (Computer MAC Address), "ホスト名" (Host Name), and "残りリース時間" (Remaining Lease Time). The first row contains the values: "192.168.1.20", "00:90:0C:0A:14:5E", and "4315". There is a "閉じる" (Close) button at the bottom left of the window.

割当てられたIPアドレス	コンピュータのMACアドレス	ホスト名	残りリース時間
192.168.1.20	00:90:0C:0A:14:5E		4315

## DHCP固定IP割り当て

本製品のDHCPサーバ機能を利用し、なおかつ特定のコンピュータ（サーバなど）のみ任意のIPアドレスで固定させたい場合に利用します。既に固定IP割り当てを設定しているときはリスト表示されます。各リストを変更したいときは「修正」ボタンを、削除したいときは「削除」ボタンをクリックしてください。

DHCP固定IP割り当てを追加したいときは、「固定割り当ての追加」ボタンをクリックします。「固定IP割り当ての追加/修正」ページが表示されます。固定設定したいコンピュータのIPアドレスを「固定割り当てIPアドレス」欄に、そのIPアドレスを利用するコンピュータのMACアドレスを「MACアドレス」欄に入力して、「適用」ボタンをクリックしてください。入力した内容が反映されたページが表示されます。

固定IP割り当てでは最大で16台のクライアントを登録できます。



## 2 DMZ機能による複数グローバルIPアドレス接続の設定

本製品はDMZネットワーク機能を装備しています。複数のグローバルIPアドレスを割り当てられるサービスをご利用のときは、DMZ機能によりサーバを公開することができます。

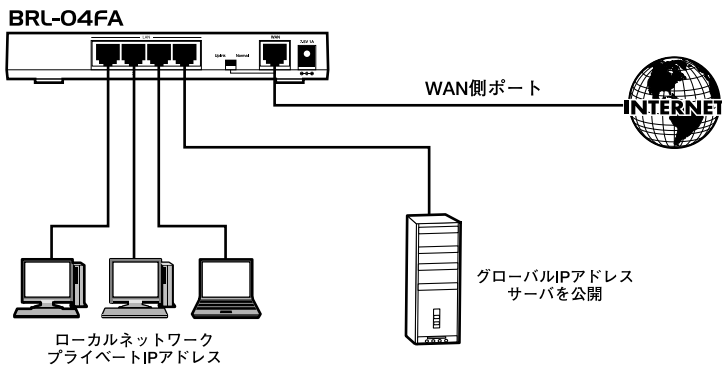


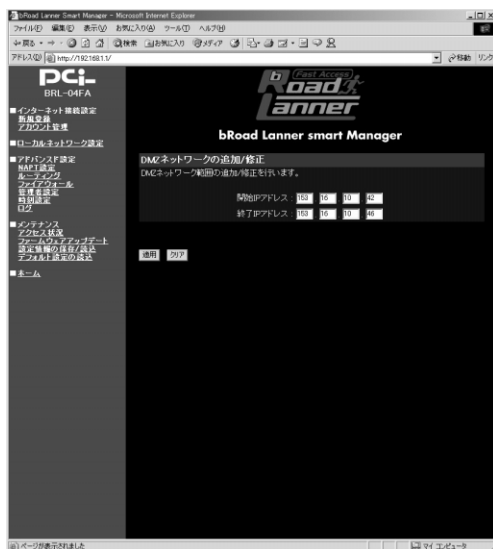
図4-1 DMZネットワーク

設定画面左側のメニューから、「アカウント管理」の文字をクリックします。「アカウント管理」画面が表示されます。ご使用のアカウントの「修正」ボタンをクリックしてください。



「DMZネットワークテーブル」に設定済みのDMZネットワーク範囲がリスト表示されます。各リストを変更したいときは「修正」ボタンを、削除したいときは「削除」ボタンをクリックしてください。DMZネットワークには最大で4つのIPアドレス範囲を設定することができます。

DMZネットワーク範囲を追加したいときは、「DMZネットワークの追加」ボタンをクリックします。「DMZネットワークの追加/修正」ページが表示されます。



追加設定したいDMZネットワーク範囲の最初のIPアドレスを「開始IPアドレス」欄に、最後のIPアドレスを「終了IPアドレス」欄に入力して「適用」ボタンをクリックしてください。

入力した内容が反映されたページが表示されるので、もう一度「適用」ボタンをクリックしてください。

## DMZ ネットワークの設定例

プロバイダから複数のグローバルIPアドレスが割り当てられる場合、1つのサブネットとして連続したグローバルIPアドレスが割り当てられます。このうち、最初（ネットワークアドレス）と最後（ブロードキャストアドレス）は、システムで予約されておりホスト（コンピュータやサーバ）には使用できません。また、本製品のWAN側ポートで使用するIPアドレスも必要になります。従って、ホストで自由に利用可能なIP アドレスは、（プロバイダから割り当てられたアドレス数 - 3 ）個になります。（プロバイダから8個のグローバルIP アドレスが割り当てられている場合は5個が利用可能）

例：プロバイダから153.16.10.40～153.16.10.47（153.16.10.40/29）の8個のグローバルIP アドレスが割り当てられた場合

- 153.16.10.40 ネットワークアドレス（使用不可）
- 153.16.10.41 ルータ用（例：本製品WAN側ポート）
- 153.16.10.42 DMZ ホスト用（例：プライマリDNSサーバ）
- 153.16.10.43 DMZ ホスト用（例：WEB サーバ）
- 153.16.10.44 DMZ ホスト用（例：メールサーバ）
- 153.16.10.45 DMZ ホスト用（例：FTP サーバ）
- 153.16.10.46 DMZ ホスト用（例：その他サーバ）
- 153.16.10.47 ブロードキャストアドレス（使用不可）

この場合、DMZ ネットワークで使用可能なIP アドレス範囲は153.16.10.42～153.16.10.46になります。DMZネットワーク設定の「開始IPアドレス」には、153.16.10.42 を設定し、「終了アドレス」には153.16.10.46 を設定してください。また、本製品のWAN 側ポートのIP アドレスには153.16.10.41 を固定設定してください。



### 注意

一般的にルータ（本製品WAN側）に設定するグローバルIPアドレスは、ネットワークアドレスの次のアドレスにします。プロバイダから指定されていない場合は、特に理由がない限りこのアドレスを設定してください。

## DMZホスト(コンピュータやサーバ)の設定

本製品のDMZネットワーク機能を利用する場合、DMZネットワークに接続するホスト(パソコンやサーバ)のネットワーク設定は次のようになります。

### IPアドレス

プロバイダから割り当てられたIPアドレスの中で、さらに本製品のDMZネットワーク範囲に設定したグローバルIPアドレス

例：153.16.10.42

### サブネットマスク

プロバイダから指定されたサブネットマスク

例：255.255.255.240

### デフォルトゲートウェイ

割り当てられたIP アドレス範囲の2 番目のグローバルIP アドレス (= 本製品WAN側ポートに設定したグローバルIPアドレス)

例：153.16.10.41

### 3 NAPT設定

ここでは本製品のNAPT（NAT/IPマスカレード）機能の設定とVPN（仮想プライベートネットワーク）パススルー機能の設定を行います。設定画面左側のメニューから、「NAPT設定」の文字をクリックします。「NAPT設定」画面が表示されます。各設定項目に必要な情報を入力します。



### 4

## アドバンスド設定

## アカウント選択

NAPT設定を行うアカウントを選択してください。

### NAPT

NAPT (NAT/IPマスカレード) 機能を有効にするときは「有効」に、NAPTを無効にして本製品をローカルルータとして使用する場合には「無効」に設定します。工場出荷時の状態では「有効」に設定されています。

### PPTPパススルー

PPTPを使用したVPNのパススルー機能を有効にするときは「有効」に、無効にするときは「無効」に設定します。工場出荷時の状態では「無効」に設定されています。

### L2TPパススルー

L2TPを使用したVPNのパススルー機能を有効にするときは「有効」に、無効にするときは「無効」に設定します。工場出荷時の状態では「無効」に設定されています。

### IPsecパススルー

IPsecを使用したVPNのパススルー機能を有効にするときは「有効」に、無効にするときは「無効」に設定します。工場出荷時の状態では「無効」に設定されています。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。



## 4 静的マスカレード機能によるサーバの公開

静的マスカレード機能によって、LAN側のサーバ（コンピュータ）をインターネット上から参照できるようにすることができます。静的マスカレードでは、ローカルサーバ、バーチャルコンピュータ、マルチNATの3種類の方法でコンピュータを公開することができます。

### ローカルサーバ

ローカルサーバとは、LAN側ポートに接続されたネットワーク上のサーバの特定のプロトコルおよびポート（アプリケーション）だけをインターネット上から参照できるようにする機能です。

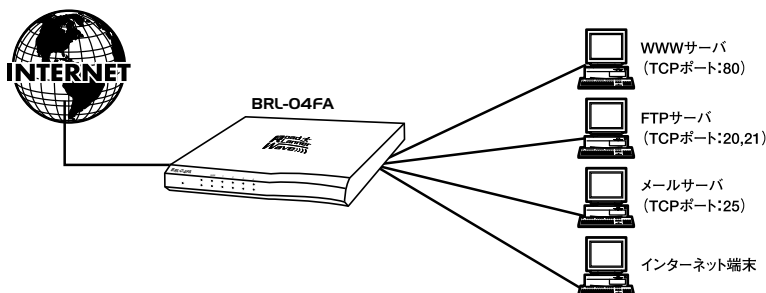


図4-2 ローカルサーバ

設定画面左側のメニューから、「NAPT設定」の文字をクリックします。「静的マスカレードテーブル」のページが表示されます。「アカウント選択」の項目で、静的マスカレード設定を行うアカウントを選択してください。

4  
アドバンスド設定



すでに静的マスカレードが登録されているときは、「静的マスカレードテーブル」に各エントリが表示されます。エントリを変更したいときは「修正」ボタンを、エントリを削除したいときは「削除」ボタンをクリックしてください。

静的マスカレードを追加したいときは「静的マスカレードの追加」ボタンをクリックしてください。「静的マスカレードの追加/修正」ページが表示されます。



## 登録ID

静的マスカレードの登録IDを設定します。静的マスカレードテーブル上では、IDの小さい静的マスカレードが優先されます。設定できる範囲は1～64です。

## プロトコル

公開するサーバ（アプリケーション）で使用しているプロトコルを選択します。ローカルサーバでは「tcp」、「udp」、「tcp&udp」、「icmp」から選択してください。「\*（すべて）」は使用しません。

## 外部IPアドレス

公開するサーバにインターネット側からアクセスするときの宛先IPアドレス（公開するIPアドレス）です。ローカルサーバでは「WAN側ポートIPアドレス」を選択します。

## 外部IPアドレス入力

「外部IPアドレス」で「指定」を選択したときのみ、インターネットに公開したいグローバルIPアドレスを入力します。ローカルサーバでは入力しません。

## 外部ポート

公開するサーバにインターネット側からアクセスするときの宛先ポート番号（公開するポート番号）です。ポート番号は「,」（カンマ）区切りで複数入力できます。また「-」（ハイフン）区切りによって範囲指定することもできます。

例：23,80,1000-1999

## 内部IPアドレス

上記で指定した外部ポート宛てのパケットが、本製品のWAN側ポートに送られてきた場合に、それが転送されるLAN側コンピュータのIPアドレスを入力します。ここに入力されたIPアドレスのコンピュータがインターネットに公開されます。

例：192.186.1.100

## 内部ポート

インターネットに公開するLAN側のコンピュータの受信ポート番号です。通常は「外部ポート番号と同じ」を選択してください。

## 内部ポート指定

「内部ポート」で「指定」を選択したときのみ、受信ポート番号を入力してください。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「静的マスカレードテーブル」にエントリが追加されます。もう一度、「適用」ボタンをクリックしてください。

「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## バーチャルコンピュータ

バーチャルコンピュータとは、LAN側ポートに接続されたネットワーク上のコンピュータをインターネット上から参照できるようにする機能です。ローカルサーバでは指定したプロトコル/ポート番号だけが公開されますが、バーチャルコンピュータではすべてのプロトコル、ポートが公開されます。アプリケーションで使用しているポート番号が不明なときは、バーチャルコンピュータを使用してください。

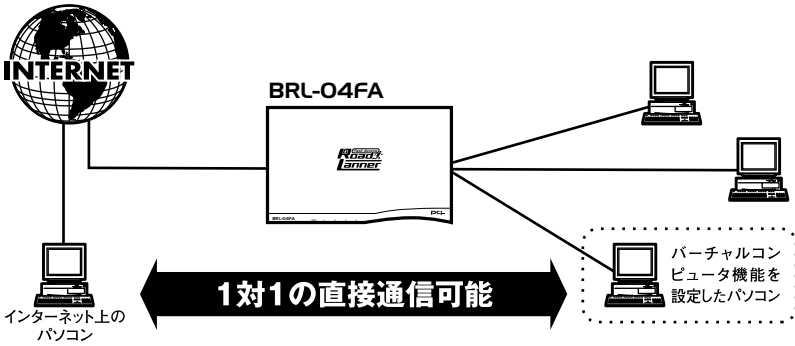


図4-3 バーチャルコンピュータ

設定画面左側のメニューから、「NAPT設定」の文字をクリックします。「静的マスカレードテーブル」のページが表示されます。「アカウント選択」の項目で、静的マスカレード設定を行うアカウントを選択してください。



# 4 アドバンスド設定

すでに静的マスカレードが登録されているときは、「静的マスカレードテーブル」に各エントリが表示されます。エントリを変更したいときは「修正」ボタンを、エントリを削除したいときは「削除」ボタンをクリックしてください。静的マスカレードを追加したいときは「静的マスカレードの追加」ボタンをクリックしてください。「静的マスカレードの追加/修正」ページが表示されます。



## 登録ID

静的マスカレードの登録IDを設定します。静的マスカレードテーブル上では、IDの小さい静的マスカレードが優先されます。設定できる範囲は1～64です。

## プロトコル

公開するサーバ（アプリケーション）で使用しているプロトコルを選択します。バーチャルコンピュータでは「\*（すべて）」を選択してください。

## 外部IPアドレス

公開するサーバにインターネット側からアクセスするときの宛先IPアドレス（公開するIPアドレス）です。バーチャルコンピュータでは「WAN側ポートIPアドレス」を選択します。

## 外部IPアドレス入力

バーチャルコンピュータでは設定する必要はありません。



## 外部ポート

バーチャルコンピュータでは設定する必要はありません。

## 内部IP アドレス

本製品のWAN側ポートのIPアドレス宛てのパケットが、本製品のWAN側ポートに送られてきた場合に、それが転送されるLAN側コンピュータのIPアドレスを入力します。ここに入力されたIPアドレスのコンピュータがインターネットに公開されます。

例：192.186.1.100

## 内部ポート

バーチャルコンピュータでは「外部ポート番号と同じ」を選択してください。

## 内部ポート指定

バーチャルコンピュータでは設定する必要はありません。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「静的マスカレードテーブル」にエントリが追加されます。もう一度、「適用」ボタンをクリックしてください。

「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## マルチNAT

マルチNATは複数のグローバルIPアドレスが割り当てられるインターネット接続サービスをご使用のときに、グローバルIPアドレスとLAN側のプライベートIPアドレスを1対1でアドレス変換（NAT）する機能です。設定したグローバルIPアドレス宛てのすべてのパケットが設定したLAN側のプライベートIPアドレスのコンピュータに転送されます。

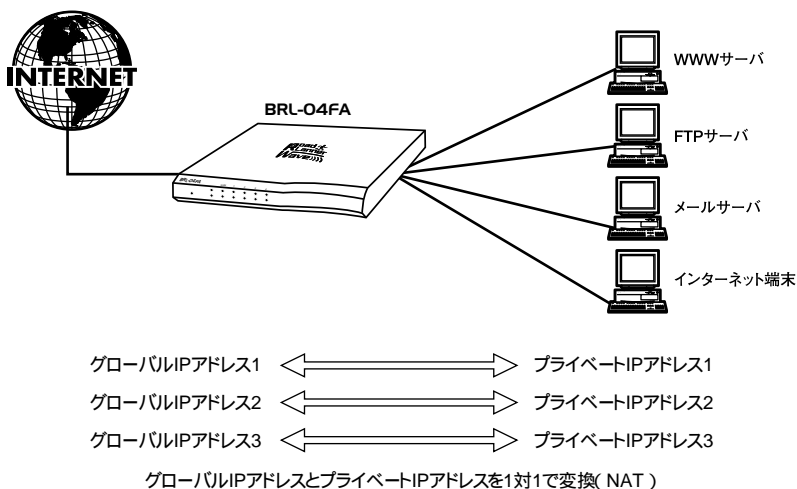


図4-4 マルチNAT

設定画面左側のメニューから、「NAPT設定」の文字をクリックします。「静的マスカレードテーブル」のページが表示されます。「アカウント選択」の項目で、静的マスカレード設定を行うアカウントを選択してください。



# 4 アドバンスド設定

すでに静的マスカレードが登録されているときは、「静的マスカレードテーブル」に各エントリが表示されます。エントリを変更したいときは「修正」ボタンを、エントリを削除したいときは「削除」ボタンをクリックしてください。

静的マスカレードを追加したいときは「静的マスカレードの追加」ボタンをクリックしてください。「静的マスカレードの追加/修正」ページが表示されます。



## 登録ID

静的マスカレードの登録IDを設定します。静的マスカレードテーブル上では、IDの小さい静的マスカレードが優先されます。設定できる範囲は1～64です。

## プロトコル

公開するサーバ（アプリケーション）で使用しているプロトコルを選択します。マルチNATでは「\*（すべて）」を選択してください。

## 外部IPアドレス

公開するサーバにインターネット側からアクセスするときの宛先IPアドレス（公開するIPアドレス）です。マルチNATでは「指定」を選択します。

## 外部IPアドレス入力

プロバイダから割り当てられたグローバルIPアドレスの中から、本製品のWAN側ポートで使用しているIPアドレス以外のIPアドレスを入力します。

## 外部ポート

マルチNATでは設定する必要はありません。

## 内部IP アドレス

上記で指定した外部IPアドレス宛てのパケットが、本製品のWAN側ポートに送られてきた場合に、それが転送されるLAN側コンピュータのIPアドレスを入力します。ここに入力されたIPアドレスのコンピュータがインターネットに公開されます。

例：192.186.1.100

## 内部ポート

マルチNATでは「外部ポート番号と同じ」を選択してください。

## 内部ポート指定

マルチNATでは設定する必要はありません。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「静的マスカレードテーブル」にエントリが追加されます。もう一度、「適用」ボタンをクリックしてください。

「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## 5 ルーティング

本製品はルーティングプロトコルとしてRIP1およびRIP2に対応しています。また、ルーティングテーブルにスタティックルーティング情報を追加することができます。



### 注意

WAN側ポートのRIP設定は「アカウント管理」画面から各アカウントの設定画面を開き、そこで行ってください。

## 4

### アドバンスド設定

設定画面左側のメニューから、「ルーティング」の文字をクリックします。ルーティング設定のページが表示されます。



## LAN側RIP設定

RIPを有効にすると隣接ルータと経路情報を交換し、自分自身のルーティングテーブルを自動的に構成するようになります。工場出荷時の状態では「無効」に設定されています。

### 無効

RIPを無効にします。

### 受信のみ

RIPパケットの受信だけ行います。

### 送信のみ

RIPパケットの送信だけを行います。

### 送受信

RIPパケットの送受信を行います。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## スタティックルーティング設定

既にスタティックルーティング設定がされているときは、「スタティックルーティングテーブル」に各エントリが表示されます。エントリを変更したいときは「修正」ボタンを、エントリを削除したいときは「削除」ボタンをクリックしてください。

新たにスタティックルーティングを追加したいときは、「スタティックルートの追加」ボタンをクリックしてください。「スタティックルートの追加/修正」ページが表示されます。「スタティックルート」は最大で16エントリまで登録できます。



### 宛先アドレス

送信先のIP アドレスを入力してください。

例：192.168.10.0

### ネットマスク

送信先のサブネットマスクを入力してください。

例：255.255.255.0

### ゲートウェイ

送信先アドレスへのゲートウェイのIPアドレスを入力してください。

例：192.168.1.10



## メトリック

メトリックには1～15までの値を入力できます。送信先に対して複数の経路があるときは、より低いメトリック値を持つ経路が優先されます。

例：1

## プライベート

「Yes」または「No」から選択します。定義したルーティング情報を本製品のRIP機能でブロードキャストしたくないときは「Yes」を選択してください。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。

「スタティックルーティングテーブル」にエントリが追加されます。もう一度、「適用」ボタンをクリックしてください。

「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## 6 ファイアウォール

本製品は以下のファイアウォール機能を装備しています。

### ステートフルパケットインスペクション

現在の通信状態（IPアドレス/ポート番号やシーケンス番号）に基づき、すべての受信パケットを検査します。検査の結果、不正なパケットと判断されたときはすべて破棄します。

### 攻撃検出機能

インターネットからのDoS（サービス拒否）攻撃やポートスキャンなどの攻撃を検出し、そのパケットを破棄します。本製品では以下の攻撃を検出できます。

検出できる攻撃：Ping of Death、TearDrop/Bonk/Boink、SYN flood、LAND、smurf、IP Spoofing、Port scan、Code Red

### 静的フィルタリング

送信元/送信先のIPアドレス/ポート番号の情報によって、受信パケットの転送/破棄を行います。



### 注意

- 1.本製品のファイアウォール機能は、インターネットからのすべての不正侵入/攻撃に対処できるものではありません。あらかじめご了承ください。
- 2.本製品のファイアウォール機能では、ウイルスやワームなどを検出することはできません。また、LAN側ネットワーク内での不正行為や攻撃も防御することはできません。あらかじめご了承ください。

ファイアウォール機能の設定をするには、設定画面左側のメニューから、「ファイアウォール」の文字をクリックします。  
メインメニューに「ファイアウォール」のページが表示されます。



## アカウント/方向の選択

ファイアウォール機能を適用するアカウントおよび方向を、「アカウント名 to LAN」または「LAN to アカウント名」から選択します。本製品のファイアウォール機能は各アカウントごとに方向別に個別に設定することができます。

## ステートフルパケットインスペクション

ステートフルパケットインスペクション機能を有効にするときは「有効」を、無効にするときは「無効」を選択します。工場出荷時の状態では「無効」に設定されています。

## tcpコネクションタイムアウト

TCPの接続要求（SYN）から、接続完了状態になるまでのタイムアウト時間を設定します。この時間を経過しても接続完了状態にならないTCPセッションは破棄されます。設定可能な範囲は1～9999秒です。工場出荷時の状態では30秒に設定されています。

### tcp fin タイムアウト

fin-exchange 検出後のセッションタイムアウト時間を指定します。fin-exchange 検出後、この時間を経過した場合、そのtcp セッションは破棄されます。設定可能な範囲は1～99分です。工場出荷時の状態では1分に設定されています。

### tcpアイドルタイムアウト

TCPセッションのアイドルタイムアウト時間を設定します。ここで設定した時間、通信が検出されなかったTCPセッションは破棄されます。設定可能な範囲は1～99分です。工場出荷時の状態では60分に設定されています。

### udpアイドルタイムアウト

UDPセッションのアイドルタイムアウト時間を設定します。ここで設定した時間、通信が検出されなかったUDPセッションは破棄されます。設定可能な範囲は1～99分です。工場出荷時の状態では1分に設定されています。

### icmp アイドルタイムアウト

icmp セッションのアイドルタイムアウト時間を指定します。ここで設定した時間、通信が検出されなかったicmp セッションは破棄されます。設定可能な範囲は1～99分です。工場出荷時の状態では1分に設定されています。

### one-minute high

1分間の新規セッションの最大値を指定します。本製品は1分間ごとの新規セッション数を検査し、この値以上の新規セッションを拒否します。設定可能な範囲は1～999です。工場出荷時の状態では100に設定されています。

### max-incomplete high

1分間の新規half-open セッションの最大値を指定します。本製品は1分間ごとのhalf-open セッション数を検査し、この値以上の新規セッションを拒否します。設定可能な範囲は1～999です。工場出荷時の状態では100に設定されています。

tcp half-open セッションとは、tcp の3ウェイハンドシェイクが完了しておらず、接続完了状態になっていないtcp セッションを意味します。udp half-open セッションとは、応答パケットが検出されていない状態のudp セッションを意味します。

### tcp max-incomplete high

同じ送信先IP アドレスに対しての新規half-open セッションの最大値を指定します。本製品は同じ送信先IPアドレスに対しての1分間ごとのtcp half-open セッション数を検査します。この値以上の同じ送信先IPアドレスへの新規TCP セッションを拒否します。設定可能な範囲は1～250です。工場出荷時の状態では10に設定されています。

## ブロッキング

同じ送信先IPアドレスに対しての不完全な（接続完了していない）TCPセッション数が一定値以上になったときに、その送信先IPアドレスへの新規セッションを受け付けるかどうかを選択します。攻撃の防御やサーバの負荷の軽減のために使用します。「有効」に設定すると新規セッションを次の「ブロッキング時間」で設定した時間破棄します。「無効」に設定すると新規セッションの破棄を行いません。

## ブロッキング時間

上記のブロッキング動作を行う時間を設定します。攻撃を防御する目的の場合は長めの時間を、サーバの負荷を軽減する目的の場合は短めの時間を指定してください。設定可能な範囲は1～999分です。工場出荷時の状態では1分に設定されています。

## IPソースルーティング

「source-route」オプション付きのパケットを破棄するときは「破棄」を選択します。許可するときは「許可」を選択します。「ソースルーティング」はIPアドレス詐称攻撃に使用される可能性があります。工場出荷時の状態では「破棄」に設定されています。

## Directed-Broadcast

「Directed-Broadcast」パケットを破棄するときは「破棄」を選択します。許可するときは「許可」を選択します。「Directed-Broadcast」パケットは、smurf攻撃に使用される可能性があります。工場出荷時の状態では「破棄」に設定されています。

## ステルスモード

インターネット側からの本製品のWAN側ポートに対するpingへの動作を応答をするかどうかを選択します。「有効」に設定するとWAN側ポートへのpingに回答しません。「無効」に設定するとWAN側ポートへのpingに回答します。工場出荷時の状態では「無効」に設定されています。



### 注意

「tcpコネクションタイムアウト」, 「tcp finタイムアウト」, 「tcpアイドルタイムアウト」, 「udpアイドルタイムアウト」, 「icmpアイドルタイムアウト」, 「one-minute high」, 「max-incomplete high」, 「tcp max-incomplete high」, 「ブロッキング時間」に不適切な値を設定すると、通常の通信に支障をきたす可能性があります。必要がない限り工場出荷時の設定を変更しないでください。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## 静的フィルタリングの設定

すでに静的フィルタが設定されているときは、「静的フィルタテーブル」に各エントリが表示されます。エントリを変更したいときは「修正」ボタンを、エントリを削除したいときは「削除」ボタンをクリックしてください。新たに静的フィルタの追加をするには、「静的フィルタの追加」ボタンをクリックしてください。「静的フィルタの追加/変更」ページが表示されます。「静的フィルタ」は最大で64エントリまで登録できます。



### 注意

異なる接続アカウント/方向や、間違ったフィルタを設定すると、通信に支障をきたす場合があります。フィルタの設定は十分注意して行ってください。

### 登録ID

静的フィルタの登録IDを設定します。静的フィルタテーブル上では、IDの小さい静的フィルタが優先されます。設定できる範囲は1～64です。

### 動作

登録するフィルタに該当するパケットが検出されたときのパケットの処理を選択します。「通過」を選択するとそのパケットを通過させます。「破棄」を選択するとそのパケットを破棄します。

## プロトコル

フィルタの対象となるプロトコルを選択します。「\*(すべて)」を選択すると、すべてのパケットが対象となります。「icmp」を選択すると、icmpパケットが対象となります。「tcp」を選択すると、TCPパケットが対象となります。「udp」を選択すると、UDPパケットが対象となります。「tcp&udp」を選択すると、TCPとUDPパケットが対象となります。

### tcpフラグチェック

プロトコル欄で「tcp」または「tcp&udp」を選択したときに、tcpパケットのフラグをチェックするかどうかを設定します。フラグをチェックするときは次の「tcpフラグ」でチェックするフラグを選択してください。

### 送信元IP アドレス

フィルタの対象となる送信元IPアドレスを入力します。IPアドレスの入力方法は下記IPアドレス入力例を参照してください。

### 送信元ポート

上記「プロトコル」欄で、「tcp」、「udp」または「tcp&udp」を選択したときに、フィルタの対象となる送信元ポートを入力します。ポート番号の入力方法は下記ポート番号入力例を参照してください。

### 送信先IP アドレス

フィルタの対象となる送信先IPアドレスを入力します。IPアドレスの入力方法は下記IPアドレス入力例を参照してください。

## 送信先ポート

上記「プロトコル」欄で、「tcp」、「udp」または「tcp&udp」を選択したときに、フィルタの対象となる送信先ポートを入力します。ポート番号の入力方法は下記ポート番号入力例を参照してください。

### IPアドレス入力例

IPアドレス	説明
*	すべてのIPアドレス
19.16.1.3	特定のIPアドレス
19.16.1.0/24	ネットワークアドレス(24ビットマスク)
19.16.1.3-19.16.1.33	「-」(ハイフン)区切りによる範囲指定
19.16.1.3,19.16.1.8	「,」(カンマ)区切りによる複数アドレス指定

### ポート番号入力例

ポート番号	説明
*	すべてのポート
80	特定のポート
80-110	「-」(ハイフン)区切りによる範囲指定
80,8080	「,」(カンマ)区切りによる複数ポート指定

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。静的フィルタテーブルに静的フィルタが追加されます。静的フィルタの登録が終わったら、もう一度、「適用」ボタンをクリックしてください。「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。



## 7 管理者設定

本製品ではセキュリティ確保のため、パスワードとIPアドレスによる管理用端末の指定が可能となっております。IPアドレスによる管理用端末のチェックを有効にすると、設定したIPアドレス以外の端末からの本製品のWEB設定画面へのアクセスができないようになり、本製品の設定画面への不正ログイン/設定変更を防ぐことができます。以下の方法で設定を行ってください。

設定画面左側のメニューから、「管理者設定」の文字をクリックします。「管理者パスワード」のページが表示されます。



### 管理者パスワード

ブラウザで本製品の設定画面を開く際に必要になる管理者パスワードを設定します。セキュリティのため、この欄に文字を入力しても正しく表示されません。工場出荷時の状態では「password」に設定されています。

例：PassWord



### 注意

最大8文字の半角英数字を入力できます。大文字・小文字の違いに注意して入力してください。

### 管理者パスワードの確認

誤入力防止のため、上記「管理者パスワード」で入力した文字を再入力してください。セキュリティのため、この欄に文字を入力しても正しく表示されません。

例：PassWord

### ユーザパスワード

本製品の設定の確認のみ可能なユーザパスワードを設定します。工場出荷時の状態では「users」に設定されています。

### ユーザパスワードの確認

確認のため上記「ユーザパスワード」と同じパスワードをもう一度入力します。

### ログイン許可ネットワーク

本製品のLAN側ネットワークとWAN側ネットワークそれぞれについて、設定画面へのログインを許可するかどうかを設定します。工場出荷時の状態ではLAN側ネットワークのみ許可されています。

### ログイン許可IPアドレス

本製品の設定画面にログインできるコンピュータのIPアドレスを入力します。「0.0.0.0」を設定するとすべてのIPアドレスが許可されます。工場出荷時の状態では「0.0.0.0」に設定されています。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## 8 WAN側ポートMACアドレスの変更

本製品はWAN側ポートのMACアドレスの変更機能を装備しています。CATVインターネット接続サービスなどでインターネットに接続する機器のMACアドレスをプロバイダに申請する必要がある場合があります。すでにコンピュータのMACアドレスを申請してあるときに、本製品のWAN側ポートのMACアドレスをプロバイダに申請してあるMACアドレスに変更することによって、MACアドレスの申請をし直すことなく、すぐに本製品を使用してインターネットに接続することができます。



### 注意

本製品のWAN側ポートのMACアドレスは必要がない場合、変更しないでください。

本製品のWAN側ポートのMACアドレスを変更するには、設定画面左側のメニューから、「管理者設定」の文字をクリックします。「MACアドレス設定」のページが表示されます。



## WAN側ポートMACアドレス

本製品のWAN側ポートに設定したいMACアドレスを16進数（0～9、A～F）で2桁ずつ入力してください。

例：00：90：cc：12：34：56

## 出荷時のMACアドレス

本製品の工場出荷時のMACアドレスです。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

# 4

## アドバンスド設定

## 9 PPPoEマルチセッション設定

本製品はPPPoEのマルチセッション機能に対応しており、最大2セッションまでのPPPoEを同時に接続することができます。セッションの切り替えは設定したルールに基づき自動的に行われます。この機能を使用すると、例えばNTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「Bフレッツ」で、1番目のセッションは通常のインターネット接続のアカウント、2番目のセッションは「フレッツ・スクウェア」接続のアカウントを設定することで、接続の切り替えをすることなく同時にアクセスすることができるようになります。



### 注意

PPPoEマルチセッションを使用するには、NTT東日本株式会社/NTT西日本株式会社の「Bフレッツ」などの複数セッションの同時接続に対応したインターネット接続サービスをご使用になる必要があります。

### 複数アカウントの登録

PPPoEマルチセッションを使用するには、本製品に2つ以上のアカウント情報を登録する必要があります。設定画面左側のメニューから、「新規登録」の文字をクリックします。インターネット接続アカウントの新規登録のページが表示されるので、「接続方法」で「PPPoE接続」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



「3-5 PPPoE接続の設定」を参照してアカウントの登録をおこなってください。

## セッションの設定

本製品のPPPoEマルチセッション機能では、1番目のセッションを「プライマリ」セッション、2番目のセッションを「セカンダリ」セッションと呼びます。登録したアカウントをそれぞれ「プライマリ」、「セカンダリ」に設定します。

設定画面左側のメニューから、「アカウント管理」の文字をクリックします。アカウント設定の画面が表示されます。



「PPPoE接続アカウントリスト」の中で、メインで使用するアカウントの「セッション」の項目を「プライマリ1」または「プライマリ2」に設定します。セカンダリセッションで使用するアカウントの「セッション」の項目を「セカンダリ1」または「セカンダリ2」に設定します。



### 注意

「プライマリ1」に登録したアカウントでの接続が失敗した場合は「プライマリ2」に登録したアカウントが使用されます。同様に「セカンダリ1」に登録したアカウントでの接続が失敗した場合は「セカンダリ2」に登録したアカウントが使用されます。

## セカンダリセッション接続ルールの設定

PPPoEマルチセッション機能では、通常のインターネットへのアクセスには「プライマリ1」または「プライマリ2」に設定したアカウントが使用されます。「セカンダリセッション接続ルール」に登録したルールに合致した通信には「セカンダリ1」または「セカンダリ2」に設定されたアカウントが使用されます。セッションの切り替えは自動的に行われます。

セカンダリセッション接続ルールを設定を行うには、設定画面左側のメニューから、「アカウント管理」の文字をクリックします。



## 送信元IPアドレス

ここで指定したIPアドレスが送信元IPアドレスとなるLAN側からWAN側へのアクセスにはセカンダリセッションが使用されます。

### IPアドレス設定例

IPアドレス	説明
*	すべてのIPアドレス
19.16.1.3	特定のIPアドレス
19.16.1.0/24	ネットワークアドレス(24ビットマスク)
19.16.1.3-19.16.1.33	「-」(ハイフン)区切りによる範囲指定
19.16.1.3,19.16.1.8	「,」(カンマ)区切りによる複数アドレス指定
19.16.1.3,19.16.1.8	「,」(カンマ)区切りによる複数アドレス指定
空白	このルールは無視する

## 送信先IPアドレスまたはホスト名

ここで指定したIPアドレスまたはホスト名が送信先となるLAN側からWAN側へのアクセスにはセカンダリセッションが使用されます。IPアドレスまたはホスト名のどちらか一方のみを指定してください。

### ホスト名設定例

ホスト名設定例	説明
jp	トップレベルドメイン指定、.jp のすべてのサイト
co.jp	セカンドレベルドメイン指定、.co.jp のすべてのサイト
planex.co.jp	「www.planex.co.jp」や「www2.planex.co.jp」など「.planex.co.jp」を含むすべてのサイト
www.planex.co.jp	「www.planex.co.jp」のみ
www*.co.jp	ワイルドカード指定
空白	このルールは無視する



## 注意

ホスト名を指定する場合は本製品のDNSリレー機能を必ず使用してください。

## プロトコル/送信先ポート

ここで指定したプロトコル/送信先ポート番号が送信先となるLAN側からWAN側へのアクセスにはセカンダリセッションが使用されます。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。

### ポート番号設定例

ポート番号設定例	説明
*	すべてのポート
80	特定のポート
80-110	ポート範囲指定

「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。



## 10 WWWサービス制限

本製品はインターネット上のWWWサーバが提供する、ActiveX、Java、Cookie、Proxyの各サービスを拒否することができます。通常これらのサービスは便利な機能を提供してくれますが、悪用される場合もあります。不必要と思われるサービスを拒否することでセキュリティを向上することができます。

WWWサービス制限の設定をするには、設定画面左側のメニューから、「管理者設定」の文字をクリックします。



### 制限する機能

ActiveX、Java、Cookie、Proxyの各サービスの中から、拒否するサービスを選択してください。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## 11 時刻設定

本製品の内蔵時計機能の時刻の設定方法の選択と時刻の設定を行います。本製品に設定された時刻は、インターネットへの接続、切断ステータスや、ログに記録されます。

本製品の時刻設定をするには、設定画面左側のメニューから、「時刻設定」の文字をクリックします。



### 現在の内部時刻

本製品の内蔵時計機能に設定されている現在の時刻を表示します。本製品を再起動すると時刻が初期化されます。

### 時刻設定方法

本製品の内蔵時計機能の時刻の設定方法を選択します。「手動」を選択したときは次の「新しい時刻」と「タイムゾーン」を設定してください。「NTPクライアント」を選択すると本製品はネットワーク上のNTPサーバから自動的に時刻を取得します。工場出荷時の状態では「NTPクライアント」に設定されています。

### 新しい時刻

時刻設定方法で「手動」を選択したときに、現在の時刻を入力します。時刻は24時間制で入力してください。

## タイムゾーン

時刻設定方法で「手動」を選択したときに、本製品を使用する地域のタイムゾーンを選択します。日本国内の場合は「GMT +09 : 00」を選択します。

## プライマリNTPアドレス

時刻設定方法で「NTPクライアント」を選択したときに、本製品が時刻の問い合わせを行う、1番目のNTPサーバのIPアドレスを入力します。工場出荷時の状態では「210.173.160.87」に設定されています。

## セカンダリNTPアドレス

時刻設定方法で「NTPクライアント」を選択したときに、本製品が時刻の問い合わせを行う、2番目のNTPサーバのIPアドレスを入力します。工場出荷時の状態では「133.100.9.4」に設定されています。

## NTPチェック間隔

時刻設定方法で「NTPクライアント」を選択したときに、本製品が時刻の問い合わせを行う間隔を設定します。工場出荷時の状態では「30」分に設定されています。

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

## 12 ログ機能

本製品のログ機能では、インターネットへの接続/切断、不正な攻撃の検出、フィルタ機能の動作などの情報をログに記録します。記録したログはE-Mailで指定したメールアドレスに送信したり、指定したsyslogサーバに送信することができます。

本製品のログ機能の設定をするには、設定画面左側のメニューから、「ログ」の文字をクリックします。

### 4 アドバンスド設定



### syslogレベル

記録するログの種類を選択します。通常は「info」のみ選択してください。



### 注意

「notice」や「debug」を選択すると、大量のログが記録され、無駄なトラフィックが発生したり、本製品の動作が遅くなったりすることがあります。

### syslogサーバIPアドレス

ログを送信するsyslogサーバのIPアドレスを入力します。

### smtpサーバIPアドレス

ログをE-Mail送信するときに、使用するsmtp（メール送信）サーバのIPアドレスを入力します。

### 宛先メールアドレス

ログをE-Mail送信するときに、送信先のメールアドレスを入力します。メールアドレスは「@」(アットマーク)以降も含めて正しく入力してください。ここで入力したメールアドレスに対してログメールが送信されます。

### 送信元メールアドレス

ログをE-Mail送信するときに、送信元として指定するメールアドレスを入力します。ここで入力したメールアドレスを送信元アドレスとしてログメールが送信されます。

### ログメールの件名

ログをE-Mail送信するときに、件名を入力します。ここで入力した件名でログメールが送信されます。件名は半角英数字で入力してください。

### メール送信トリガ

本製品がログメールを送信するトリガを設定します。「DoS攻撃検出時」を選択すると本製品がDoS攻撃を検出したときにログメールを送信します。「ログが一杯の時」を選択するとログが記憶容量一杯に達したときにログメールを送信します。「毎日」を選択すると、毎日このあとで指定した時刻にログメールを送信します。

### ログ内容表示ボタン

現在記録されているログの内容を表示します。

### ログ内容消去ボタン

現在記録されているログを消去します。

### ログメール送信ボタン

現在記録されているログ内容をメール送信します。

## 4

## アドバンスド設定

入力内容を確認し、正しければ「適用」ボタンをクリックしてください。  
「設定を保存して再起動します。」メッセージが表示されるので、「再起動」ボタンをクリックしてください。「再起動」ボタンをクリックすると、変更した設定内容が保存され本製品が再起動を開始します。

# その他の機能

## 1 アクセス状況の表示

アクセス状況では本製品の「LAN側からWAN側」と「WAN側からLAN側」それぞれの通信状況（NAPTセッションの状況）を表示します。

設定画面左側のメニューから、「アクセス状況」の文字をクリックします。「アクセス状況」のページが表示されます。



### **送信元IPアドレス**

送信元のコンピュータのIPアドレスです。

### **送信元ポート**

送信元のコンピュータのポート番号です。

### **変換後ポート**

NAPT変換後のポート番号です。

### **送信先IPアドレス**

送信先のコンピュータのIPアドレスです。

### **送信先ポート**

送信先のコンピュータのポート番号です。



## 2 設定情報の保存/読み込み

ここでは、本製品の設定情報をファイルに保存したり、保存した設定情報を読み込むことができます。

設定画面左側のメニューから、「設定情報の保存/読み込み」の文字をクリックします。「設定情報の保存/読み込み」ページが表示されます。



### 設定情報ファイルの読み込み

「設定情報の読み込み」欄に読み込ませたい設定ファイルをフルパスで指定します。または「参照」ボタンをクリックして、読み込ませたいファイルを選択して「開く」ボタンをクリックしてください。ファイルがフルパスで入力されます。

ファイルを指定したら、「設定情報の読み込み」ボタンをクリックしてください。設定ファイルが読み込まれ本製品が再起動します。



### 注意

設定情報を読み込ませると自動的に再起動します。LAN側IPアドレスやインターネット設定もすべて読み込まれた設定ファイルの情報に変わります。アクセスするコンピュータの設定を読み込ませた設定情報に合わせてください。  
本製品のファームウェアのアップデートを行った場合、前のバージョンのファームウェアで保存した設定情報の読み込みはできない場合があります。

## 設定情報の保存

「保存」ボタンをクリックしてください。ファイルのダウンロードウィンドウが表示されるので、この「ファイルをディスクに保存する」を選択して、「OK」ボタンをクリックしてください。「保存する場所」と「ファイル名」を指定するウィンドウが開きますので、それぞれ指定して、「保存」ボタンをクリックしてください。設定情報ファイルが保存されます。

### 3 ファームウェアのアップデート

ここでは本製品のファームウェアのアップデートができます。  
設定画面左側のメニューから、「ファームウェアアップデート」の文字をクリックします。「ファームウェアアップデート」ページが表示されます。



#### ファームウェアのアップデート

「ファームウェアのアップデート」の欄に読み込ませたいファームウェアをフルパスで指定します。または「参照」ボタンをクリックして、ファームウェアを選択して「開く」ボタンをクリックしてください。ファームウェアがフルパスで入力されます。

ファームウェアを指定したら、「アップデート」ボタンをクリックしてください。ファームウェアが読み込まれ本製品が再起動します。



#### 注意

最新のファームウェア情報につきましては、弊社ホームページ (<http://www.planex.co.jp/>) をご覧ください。

## 4 デフォルト設定の読み込み

ここでは本製品の設定を工場出荷時のデフォルト設定に戻すことができます。設定画面左側のメニューから、「デフォルト設定の読込」の文字をクリックします。「デフォルト設定の読込」ページが表示されます。「デフォルト設定の読込」ボタンをクリックデフォルト設定が読み込まれ本製品が再起動します。







# トラブルシューティング

## POWER LEDが点灯しない

- 本製品付属のACアダプタを使用していますか？
- ACアダプタが本製品背面の電源コネクタにしっかりと接続されていますか？
- ACアダプタはAC100Vコンセントにしっかりと接続されていますか？

## WAN LEDが点灯しない

- LANケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のWANポートおよびADSL/ケーブルモデムのRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- ADSL/ケーブルモデムの電源は入っていますか？
- LANケーブルの種類（ストレートまたはクロス）は合っていますか？

## LAN LEDが点灯しない

- LANケーブルの両端はそれぞれ、本製品背面のLANポートおよびハブ（コンピュータ）のRJ-45ポートにしっかりと接続されていますか？
- コンピュータの電源は入っていますか？

## WEB設定画面が表示されない

- コンピュータのネットワークアダプタは正常に動作していますか？コンピュータまたはネットワークアダプタのマニュアルを参照してネットワーク設定を確認してください。
- コンピュータのTCP/IPの設定が間違っている可能性があります。IPを自動取得（DHCPを使用）する設定にしてください。
- 使用しているWEBブラウザで、プロキシが設定されていると設定画面が表示されません。プロキシを使用しない設定にしてください。Internet Explorerでは「表示（ツール）」 「インターネットオプション」 「接続」、Netscapeでは「編集」 「設定」 「詳細」にプロキシの設定項目があります。

コンピュータがIPアドレスを取得できていない可能性があります。

WindowsではDOSプロンプトから、ipconfig コマンドを実行するとIPアドレスが表示されています。Macintoshではアップルメニューから「コントロールパネル」「TCP/IP」を開いて、IPアドレスの欄にIPが割り振られてるか確認してください。コンピュータがIPアドレスを取得できていないときは、コンピュータを再起動してください。（デフォルト設定時は192.168.1.xxx がIPアドレスとして割り当てられます。）

### インターネットにアクセスできない

WAN側ポートの設定が間違っている可能性があります。

プロバイダから受け取っている設定の資料をよく確認し、「第3章」の設定をやり直してください。

DNSサーバの設定が間違っている可能性があります。

DHCPサーバ機能を利用されているときはプロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確認し、「第3章」の設定をやり直してください。

DHCPサーバ機能を利用していないときはプロバイダから受け取っているIP設定の資料をよく確認し、コンピュータのDNSサーバ設定を確認してください。

IPフィルタが設定されていませんか？

IPフィルタの設定を確認してください。

### MACアドレスがわからない

本製品のMACアドレスは本体底面のシールに印刷されています。Node ID： の後の12桁の文字列が本製品のMACアドレスです。



# インターネット接続設定の ステータス表示

**本**

製品の設定画面の「インターネット接続設定」ページの「ステータス」欄に表示されるメッセージの一覧です。

メッセージ	意味
Disabled	設定が無効になっています。
Link Down	WAN側ポートが物理的にリンクしていません。
Connect (接続時間、 IP address, Netmask, Gateway)	接続が成功しています。
Disconnected	切断されています。
In the PPPoE Sequence	PPPoEの接続処理中です。
PPPoE:Service- Name- Error	PPPoEサービス名が不正です。
PPPoE:AC- System- Error	PPPoEサーバから接続拒否されました。
PPPoE:Generic- Error	PPPoE接続処理中に不明なエラーが発生。
PPPoE:PADI- Timeout	PPPoE接続処理中にPADIタイムアウトが発生。
PPPoE:PADR- Timeout	PPPoE接続処理中にPADRタイムアウトが発生。
PPPoE:LCP- Timeout	PPPoE接続処理中にLCPタイムアウトが発生。
PPPoE:IPCP- Timeout	PPPoE接続処理中にIPCPタイムアウトが発生。
PPPoE:Authentication- Failed	PPPoE接続処理中に認証に失敗しました。
PPPoE:Authentication- Timeout	PPPoE接続処理中に認証に失敗しました。
DHCP Offering	DHCPサーバからIPアドレスを取得中です。

**B**

インターネット接続設定のステータス表示



# デフォルト設定

本

製品の工場出荷時のデフォルト設定は以下のようになっています。デフォルト設定の読み込みを行った場合も、以下の設定が読み込まれます。

C

仕様

項目		設定内容
LAN側	IPアドレス	192.168.1.1
	サブネットマスク	255.255.255.0
	デフォルトゲートウェイ	192.168.1.1
DHCPサーバ	DHCPサーバ	有効
	DHCP IP割当て範囲	192.168.1.20~120
	DHCP固定IP割当て	なし
	プライマリDNS	0.0.0.0
	セカンダリDNS	0.0.0.0
	WINSサーバ	0.0.0.0
	管理者パスワード	password
	ユーザパスワード	users
	WWWサービス制限	なし
	管理者ログイン許可ネットワーク	LAN側のみ
	管理者ログイン許可IPアドレス	*
	アカウント設定	なし
	ドメイン名	未設定
	ホスト名	broadlanner
	NAT	有効
	RIP	無効
	静的マスカレード	なし
	ルーティングテーブル	なし
	ステートフルパケットインスペクション	無効
	静的フィルタ	なし
	UPnP機能	有効
	syslog	無効
	時刻設定	NTPクライアント



# 仕様

## < 準拠する標準 >

IEEE802.3 10BASE-T、IEEE802.3u 100BASE-TX

## < ポート >

LAN側 : 10BASE-T/100BASE-TX RJ-45 スイッチ × 4ポート

WAN側 : 10BASE-T/100BASE-TX RJ-45 × 1ポート

## < LED >

Power、Status、Link/Act、100M

## < 入力電源 >

DC 7.5V、1A

## < 消費電力 >

最大5.475W

## < 外形寸法 (W × D × H) >

175 × 110 × 27 mm

## < 重量 (本体のみ) >

245g

## < 環境 >

動作温度 0 ~ 40

動作湿度 35 ~ 85%

## < EMI >

FCC Class B , VCCI Class B , CE Mark



## Memo

## ユーザー登録について

この度は弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。弊社では製品をお買い上げいただいたお客様にユーザー登録をお願いしております。ユーザー登録を行っていただいたお客様には新製品情報、バージョンアップ情報、キャンペーン情報等さまざまな情報を提供させていただきます。また、製品の故障等でユーザーサポートをお受けになるにはお客様のユーザー登録が必要となります。ぜひユーザー登録を行ってくださいますようお願いいたします。

ユーザー登録は下記弊社インターネットホームページ上で受け付けております。ユーザー登録を行って戴いたお客様の中から毎月抽選でプレゼントを差し上げております。

<http://www.planex.co.jp/user/>



## 弊社へのお問い合わせ

### 弊社製品の追加購入

弊社製品のご購入は、販売店様またはPCIダイレクトまで。  
ケーブル1本からレイヤ3スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。  
PCIダイレクト  
<http://direct.planex.co.jp/>

### 製品に関するお問い合わせ

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。  
ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。  
ご質問/お見積もりフォーム  
<http://www.planex.co.jp/lan.shtml>

### 技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ

製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。  
豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

お問い合わせフォーム

<http://www.planex.co.jp/support/techform/>

受付：24時間

電話

フリーダイヤル：0120-415977

受付：月～金曜日、10～12時、13～17時

\* 祝祭日および弊社規定の休業日を除く

FAX

ファクス番号：03-5614-1018

受付：24時間

お問い合わせ前お願い

サポートを円滑に行うため、お問い合わせ前に以下のものをご用意ください。  
お客様のご協力お願いいたします。

- ・弊社製品の製品型番とシリアルナンバー
- ・ご利用のコンピュータの型番とオペレーティングシステム名(Windows XP/Meなど)
- ・ご利用のネットワークの環境(回線の種類やインターネットサービスプロバイダ名など)
- ・ご質問内容(現在の状態、症状など。エラーメッセージが表示されている場合はその詳細を書きとめてください)

### その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。  
プラネックスコミュニケーションズ  
<http://www.planex.co.jp/>

## 質問表

技術的なご質問は、この2ページをコピーして必要事項をご記入の上、下記FAX番号へお送りください。

ブラネックスコミュニケーションズ テクニカルサポート担当 行

FAX : 03-5614-1018

送信日 : \_\_\_\_\_

会社名			
部署名			
名前			
電 話		F A X	
E-MAIL			

製品名 Product name	4ポート ブロードバンド ルータ		
型番 Product No.	<b>BRL-04FA</b>		
製造番号 Serial No.			

### ご使用のコンピュータについて

メーカー	
型番	

### ソフトウェア

ネットワーク OS	バージョン
OS	バージョン



# 保証規定

ブラネックスコミュニケーションズ(株)は、本製品についてご購入日より本保証書に記載の保証期間を設けております。

本製品付属の取扱説明書などに従った正常な使用状態の下で、万一保証期間内に故障・不具合が発生した場合、本保証規定に基づき無償修理・交換対応を行います。

ただし、次のような場合には保証期間内であっても有償修理となります。

1. 本保証書がない場合。
2. 本保証書に、ご購入日・お名前・ご購入代理店印の記入がない場合、または字句が改ざんされている場合。
3. 取扱上の誤り、または不当な改造や修理を原因とする故障及び損傷。
4. ご購入後の輸送・移動・落下による故障及び損傷。
5. 火災、地震、落雷、風水害、ガス害、塩害、異常電圧およびその他の天変地異など、外部に原因がある故障および損傷。
6. 他の機器との接続に起因する故障・損傷。

## 初期不良交換

保証期間発生日より1ヶ月以内の故障に関しては、初期不良交換サービスの対象となります。

お客様より初期不良である旨申告していただき、弊社がその申告現象を確認した場合に限り、初期不良品として新品と交換いたします。

ただし、検査の結果、動作環境や相性を起因とする不具合であった場合には、初期不良交換サービス対象とはなりません。また、当サービスをご利用頂くには、お買い上げ商品の全ての付属品が揃っていることが条件になります。

## 初期不良・修理依頼の手順(センドバック方式)

弊社では、センドバック(先に修理依頼品をお送りいただき、弊社より修理完了品をご返却する)方式による修理対応を行っております。

1. 本製品に故障・不具合が発生した場合、弊社サポートセンターまでご連絡ください。お送り先をご案内させていただきます。

ブラネックスコミュニケーションズ(株) サポートセンター

フリーダイヤル・0120-415977 FAX・03-5614-1018

Web・<http://www.planex.co.jp/support/repair/>

2. ご案内に従って、修理依頼品を弊社リペアセンターまでお送りください。  
(誠に勝手ながら、リペアセンターへお送りいただく際の送料はお客様のご負担をお願いいたします。)
3. 当該初期不良・修理品の到着後、初期不良の場合は交換品、修理の場合は修理完了品をお送りいたします。

## 免責事項

- ・お客様及び第三者の故意または過失と認められる本製品の故障・不具合の発生につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品の使用及び不具合の発生によって、二次的に発生した損害(事業の中断及び事業利益の損失、記憶装置の内容の変化、消失等)につきましては、弊社では一切責任を負いません。
- ・本製品に装着することにより他の機器に生じた故障・損傷について、弊社では本製品以外についての修理費等は一切保証致しません。

# 保証書

弊社の保証規定を必ずご覧下さい

保証期間 Warranty	西暦                      年              月              日 より 1年間
製品名 Product name	4ポート ブロードバンドルータ
型番 Product No.	<b>BRL-04FA</b>
製造番号 Serial No.	

フリガナ	
会社名	
部署名	
フリガナ	
お名前	
フリガナ	
ご住所	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> 都 道 府 県
TEL	
FAX	
メールアドレス	

ご購入代理店名 所在地	
----------------	--

本保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.

## プラネックスコミュニケーションズ株式会社

